

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 東郷 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、数学に関する調査）」、文部科学省が指定した日（4月14日から4月17日の間）に「教科（理科に関する調査）」、「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、数学、理科）

教科に関する調査（国語、数学、理科）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 生徒質問調査

生徒質問調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、理科）の結果

本年度の結果	国語		数学		理科
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均IRTスコア
本市	7.4	53	6.7	45	492
全国	7.6	54	7.2	48	503

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	言葉の特徴や使い方に関する事項などの知識、多肢選択式の回答率は全国平均を上回っている。一方で根拠を明確にしたり、相手に伝わりやすく工夫して書くなどの、技能に関する設問は全国平均を下回っている。
	よくできた問題	・ ちらしに「会場図」を加えた目的を説明したのとして適切なものを選択する ・ スライドを使ってどのように話しているのかを説明したのとして適切なものを選択する
	努力が必要な問題	・ ちらしの読み手に向けて、今年の美術展の工夫について伝える文章を書く ・ 「一 榎木の実」に書かれている場面が、「二 釣の話」には書かれていないことによる効果について、自分の考えとそう考えた理由を書く

数学	全体的な傾向や特徴など	グラフの読み取りなど、データの活用に関しては全国平均と同程度である一方、数と式、図形、関数の領域は全国平均を下回っている。
	よくできた問題	・ ある学級の生徒40人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表から、20m以上25m未満の階級の相対度数を求める
	努力が必要な問題	・ $3n$ と $3n+3$ の和を $2(3n+1)+1$ と表した式から、連続する二つの3の倍数の和がどんな数であることを説明する

理科	全体的な傾向や特徴など	生命を維持する働きに関する知識や気圧の知識などが概念として理解できている一方、予想される実験の結果を記述したり、予想を選択したりする、思考等が求められるものは全国平均を下回っている。
	よくできた問題	・ 生物1から生物4までの動画を見て、呼吸を行う生物をすべて選択する ・ クリーンルームのほかに気圧を利用している身近な事象を選択する
	努力が必要な問題	・ 【考察】をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する ・ 設定した【仮説】が正しい場合の実験結果の予想を選択する

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要

質問調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習活動について <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習内容が定着していない ・ 自ら学びを調整する力が育っていない ○ 心の育ちについて <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分に自信がない ・ 幸せな気持ちになる場面が少ない ・ いじめは、どんな理由があってもいけないと考えている ○ 地域との関係について <ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツや体験活動で地域とかかわる経験が少ない ○ 読書量が少ない

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・ ICTを活用した個別最適化された学習過程の工夫
- ・ 主体的対話的で深い学びの実現を図る学習過程の工夫
- ・ 互見授業や合同研修を通じた、学力観や課題点の共通理解

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・ 小中一貫教育を通じた、地域や異学年等との交流の場の創設及び保護者への発信
- ・ 小中で共通した家庭学習の取組の実施
- ・ AI型ドリルの活用とその周知